

誰も言っていない句こそ面白い

# 人のゆく裏道での発見

俳人・変哲のバックグラウンドは川柳である。

川柳好きだった父、雑誌の付録の川柳本、そして落語。

「世事百般を「笑いととも」に穿つ」川柳の魅力を

小沢昭一さんに聞いた。

## 川柳好きだった親父

俳句のほうは四十年ほど前から仲間と句会を楽しんでおりますが、川柳はほとんど詠んだことがあります。しかし子どももの頃から親しんではいたんですよ。

誰でもそうなのかどうか、倅は父親がやっていることがわりと気にな

るもので、親父は町（蒲田）の写真

屋でしたが、いつも仕事をしながら広告チラシの裏なんかにか何か書いて

るんですよ。川柳を考えてるんです。

「ご存じでしょうが、昔の写真館つてのは修正の技術が大事でした。写

真の原板を裏から光を通し、鉛筆尖らしたやつで修正していくんですが、

見合い写真なんてのは、これでいい男、いい女にする。親父はこの腕が

なかなか達者だったようで、お客には好評でした。

ただ仕事がのろい。半病人だったせいもあるんだけど、川柳を考えながら仕事やっていたからなおさらだつたらうと思うんですね。でもって、近所の商店街の親父たちなんかと月に一回ぐらい蕎麦屋の二階に寄り合つては川柳の会をやっていて、会誌も出していました。

俳優

## 小沢昭一

●おざわ・しょういち 1929年東京生まれ。早稲田大学仏文科、俳優座附属養成所卒業。俳優、芸能研究者としても著名。明治村村長、日本新劇俳優協会会長、劇団「しゃぼん玉座」主宰。